

GO TO **東京オリ・パラ** 2020 Vol.22

**ミャンマーって
どんな国？**
～仏教の国～

ミャンマーは、国民の90%が仏教を信仰する仏教国です。僧侶ではない、女性を含めた多くの国民が「徳」を積むために数日から数か月の一時的な出家をします。日々の生活の中でも、より良い来世のため、現世で良い行いを重ね、徳を積むことが一番大切なこととされています。徳を積むための方法は、僧侶への托鉢、寺や僧院への寄付などが一般的です。

国内には、大小様々な「パゴダ」と呼ばれる黄金色の仏塔や寺院があり、人々は日常的にお参りをして祈りを捧げます。観光客にも人気のスポットですが、ミャンマーの人々にとっても神聖な場所であり、参拝のルールを守ってお参りをする必要があります。

2012年頃からは、ミャンマー国内の多数派を占める仏教徒と、少数派のイスラム教徒との軋轢や衝突が顕在化し、世界的に報道されています。



ミャンマー仏教の象徴
「パゴダ」
写真提供
日本アセアンセンター

問政策課 ☎内線229

「無料で点検する」などと言って来訪した事業者に高額な請求をされても、安易に書面にサインをしたり、お金を支払ったりせず、地域の事業者に見積もりを取ったり、家族や近所の人たちと相談しましょう。

災害に便乗した住宅修理
トラブルに注意！



こんな時は
すぐに警察へ通報を！

警察官や銀行関係者などを装い「手続きに必要なので、暗証番号を教えてください」などと言葉巧みにキャッシュカードをだまし取ろうとする手口が急増しています。警察官や銀行関係者がそのようなことを聞いたり、自宅にキャッシュカードを取り

振り込め詐欺にも注意！



に行くことは、絶対にありません。お金の話が出たらすぐに警察へ通報してください。

架空請求にもご注意ください！！

「消費料金に関する最終告知のお知らせ」などといった内容の身に覚えのないハガキや封書が届いた場合には、「無視をする！」「連絡しない！」ことが鉄則です。

問町民課 ☎内線237
大磯警察署 ☎(72)0110



イノシシ・シカを増やさない・寄せ付けない地域づくり
果樹の仕立て方とイノシシ対策編

◆被害をなくす果樹の仕立て方
果樹の生育にとって、枝木の剪定など、樹の仕立て方は重要な要素の一つですが、鳥獣害対策にとっても重要です。

例えば、図①のように果樹の周りに電気柵を設置した場合、柵の外に出ている果実はイノシシに食べられてしまいます。おいしい果実を食べることを経験したイノシシは、「ここは良いエサ場だ」と覚えて、同じ場所に何度も来つづけます。

こうなるとイノシシは、果実に夢中になって柵を気にせず近づいてきて、電気が感電する鼻の部分に電気柵があたり、柵を突破して畑に侵入してしまうことがあります（イノシシは鼻以外に電気柵があたっても感電しません）。

これを防ぐには、図②のように柵の外に果実が出ないよう枝木を剪定し、柵と果樹との間には最低限、人が一人歩けるスペースを空けることが有効です。

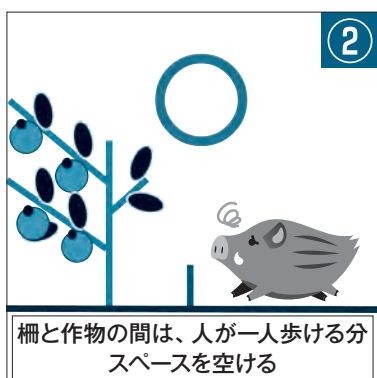
◆鳥獣害対策が果樹生産の改善のきっかけにもなる

枝木の剪定の結果、収穫できる実の数が減ってしまう場合もありますが、一つひとつの実に行き渡る栄養分を増やし、これ

までよりもランクの高い果実の生産にシフトするのも一つの方法です。その結果、収穫数は減っても、最終的な売上は増えたという事例もあると聞きます。さらには枝木が減った分、農薬の散布量が減りコスト削減にもつながる場合もあります。このように、鳥獣害対策は果樹の生産そのものの改善を考えるきっかけにもなります。



① 電気柵など



② 柵と作物の間は、人が一人歩ける分スペースを空ける

問産業観光課 ☎内線262